

○会長講演

人口学とその周辺……………小林 和正(日 本 大 学)

○シンポジウム「中国の人口」

<座 長> 村松 稔(国立公衆衛生院)
河邊 宏(人口問題研究所)

1. 中国の人口動向……………島村 史郎(野村総合研究所)

<討 論> 早瀬 保子(アジア経済研究所)

2. 中国の人口政策……………若林 敬子(人口問題研究所)

<討 論> 石 南国(城西大学)

3. 食糧・農業問題と人口について……………唯是 康彦(千葉大学)

<討 論> 加藤 寿延(亜細亜大学)

なお、次年度の第38回大会は駒沢大学(東京)において開催される予定である。

(山口喜一記)

国際人口学会 (I U S S P) 1985年総会

国際人口学会 (International Union for the Scientific Study of Population, *President* : Mercedes B. Concepcion) の1985年総会 (1985 General Conference) が、1985年6月5日 (水) から12日 (水) までの間、イタリアのフィレンツェ (フローレンス) で開催された。

今回はちょうど20回めの総会に当たり、全世界から1,000名に近い多くの人口研究者が集り、盛大に行われた模様である。日本からも本研究所の河野稠果 (人口政策部長)、阿藤誠 (人口資質部長)、廣嶋清志 (人口政策部推計科長) の3技官を始め合計10名 (国連人口部からの井上俊一、堀内四郎両氏を含む) が参加された。

総会は、初日 (5日) のOpening Plenary Session における William Brass (U. K.), Nathan Keyfitz (U. S. A.) および Louis Henry (France) の "Demographers' views into the 21st Century" によって幕を開け、Scientific programme は、28 Formal Sessions, 14 Informal Sessions および 4 Side Meetings に分けられ、それぞれ研究報告と活発な討論が行われ、最終日 (12日) のClosing Plenary Session における Giovanni Spadolini (Italy) および Carmen Miro (Panama) それぞれの "Tribute to Giorgio Mortara, Scholars and politicians: shared responsibilities on population issues" をもって幕が閉じられた。

本研究所関係者の報告としては、Informal Session I. 5 (Reversals in declining mortality) における河野部長 (高橋重郷研究員との共同研究) の "Mortality trends in Japan: why has the Japanese life expectancy kept on increasing?", および Formal Session F. 13 (Demographic and other factors of the family life cycle) における廣嶋科長の "Family matrix: its theory and application" とがあったが、河野部長はまた、F. 13のChairman を担当した。

なお、次期役員の改選が行われて新会長にはイギリスのW. Brass氏が選出され、また、河野稠果氏が理事に再選された。今回の総会の内容についての詳細は、次号に掲載 (河野稠果稿) されることになっている。

(山口喜一記)

アジア諸国の全国人口移動調査に関する国際シンポジウム

エスカップは、かねてから関係諸国の全国的な人口移動調査の実施を企画、相互の比較が可能なように、膨大な数の調査項目を含む調査票のサンプル、調査方法や調査結果の集計方法に至るまでのマニュアルを作って、調査の実施を各国に呼びかけてきた。しかし資金不足、調査の困難さなどから、これまで人口移動の全国調査を実施した国は多くなく、また調査が行われても、その詳細な集計とそれにもとづく分析が行われたものはほ